

地域社会

日本ガイシグループは、各国・地域の社会的課題に関心を持ち、地域に信頼される企業市民であることを目指して、各地のニーズに応じた社会貢献活動に取り組んでいます。

地域社会への基本的な考え方

日本ガイシグループは、以下のような考え方のもとで、社会貢献活動を推進しています。

活動の軸

「人・教育」、「環境」、「地域との関わり」を主要な活動軸とする。

会社活動と従業員の関わり

- ・活動内容の理解を促進し、従業員に社会貢献マインドが浸透するよう活動情報を提供する。
- ・従業員の満足感、会社への信頼感を醸成するために、会社が個人活動を積極的に認める。

情報発信

従業員に活動を体験/実感できる機会を提供する。

社会貢献活動の推進体制

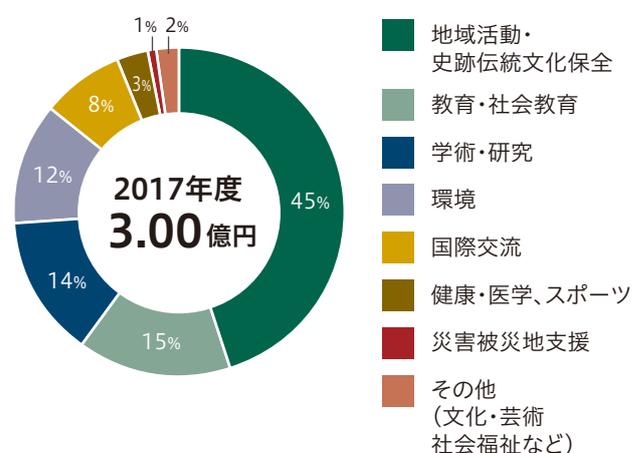
日本ガイシグループの社会貢献活動は、CSR委員会のもと総務部長が分科会長を務める社会貢献推進専門分科会を中心に推進しています。

各地で実施した社会貢献活動に関する情報は、国内外のグループ会社の社会貢献活動通信員から収集しています。2017年度は、70件の活動報告がありました。

<社会貢献活動の推進状況>

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
社会貢献支出額	3.31億円	3.46億円	3.15億円	3.00億円
社会貢献プログラム数	8件	9件	10件	10件
NPO/NGOとの協働件数	5件	4件	4件	4件

<活動の内訳>



留学生への奨学、生活支援

日本ガイシは、国際社会の発展に貢献する人材育成への寄与を目的に、一般財団法人日本ガイシ留学生基金を設け、日本を訪れる海外からの留学生に対する宿舍提供や奨学金支給を柱とする支援活動を続けています。

この活動は、1930年代から日本ガイシが世界へ進出した際、海外へ赴任した従業員やその家族が現地で温かい支援を受けたことへの感謝の気持ちから始まったもので、日本で学ぶ留学生たちにも「日本へ来て良かった、日本を好きになった」と思ってもらえるよう努めています。

2017年度は11カ国39人に宿舍を提供、13カ国20人に奨学金（給付型）を支給しました。

参考
URL

一般財団法人日本ガイシ留学生基金
<http://www.ngk.co.jp/csr/philanthropy/>

支援留学生と地域社会、従業員との交流

支援留学生と地域の方々や従業員との草の根国際交流の機会となる各種の行事にも取り組んでいます。留学生が講師を務める語学講座を2000年から、留学生が母国を紹介する異文化交流会を2006年から毎年開催しています。

2017年度は、韓国語講座を12回行いました。また、各国の留学生が毎回交代で母国を紹介する異文化交流会を8回実施。留学生と地域住民との良い交流の機会となりました。2017年度までの参加者は、約960人となります。

<留学生と地域住民の参加者数>

	韓国語講座	異文化交流会
留学生	3人	12人
地域住民	24人	20人



韓国文化交流会(2017年10月)

支援終了後のコミュニケーション

支援終了後も支援留学生との関係を維持するため、OB・OGを含む留学生に、近況報告を兼ねた年賀状を送っています。

また、支援が終了した留学生には、当社の連絡先を記載した「NGKインターナショナルフレンドシップクラブ」のメンバーズカードを配布しています。

2017年度は財団や日本ガイシのトピックスを掲載した年賀状を支援が終了した留学生を含む約300人に送付しました。

TOPIC

世界各国からの留学生が、暮らし、学び、笑う ～日本ガイシインターナショナルハウス～

「週末以外は毎日23時まで研究室にいます。ここの部屋は机も広くて勉強しやすい。疲れたときには部屋のベランダに出て風に当たります」と語るのは、ウガンダからの留学生、アカンドウワナホ・エドウィンさん(写真右)。名古屋大学大学院環境学研究科で、道路交通について研究しています。

イタリアから来たファビアニ・アレクシアさん(写真左)は、名古屋大学理学部で物理学を学んでいます。「ここは安全で静かだし、住人も皆優しい。一人暮らしだと友達もできにくいですが、ここならできるし、すぐ会えます」。休みの日には留学生が集まって、共用キッチンで作った料理を交換し合うこともあるそうです。



実績

支援留学生の数 **806**人(1997～2017) 語学講座・異文化交流会の参加者累計 **964**人(2000～2017)

地域社会、NPOなどと協調した社会貢献活動

日本ガイシは、地域に信頼される企業市民であることを目指し、地域社会やNPOなどと協調して、地域のニーズに応じた社会貢献活動に取り組んでいます。また、国内外の日本ガイシグループ各社でも、従業員ボランティアを中心に、それぞれの地域に根付いた社会貢献活動を行っています。

参考
URL

その他の社会貢献活動については
ホームページをご覧ください。
<http://www.ngk.co.jp/csr/social/stakeholder/activity/>

日本ガイシの社会貢献活動

陸前高田市の中学生の職場体験に協力

日本ガイシは、名古屋市教育委員会が行う陸前高田市の中学生の職場体験に協力しました。訪れた同市の中学生2人は大島卓社長と歓談後、本社工場でハニセラムの窯出し作業などを体験しました。

東日本大震災で甚大な被害を受けた陸前高田市に対して名古屋市が行っている「丸ごと支援」に基づき、2016年から継続して毎年実施しています。



「こまき夏まつり」を開催

小牧事業所は毎年恒例の「こまき夏まつり」を開催し、近隣住民や社員の家族ら約1,600人が来場しました。

特設ステージでは和太鼓演奏や大道芸のほか、地元歌手を招待した歌謡ショーが行われました。屋台では焼きそばやみたらし団子、ボールすくいなどのブースを出店。枚数限定で配布したうちわに書かれた抽選番号での景品抽選会も実施され、会場は熱気に包まれました。



国内グループ会社の社会貢献活動

NGKフィルテック 地元の祭りに協賛

NGKフィルテックは茅ヶ崎市内で行われた「第62回大岡越前祭」に協賛しました。このイベントは1956年※から開催されており、地元企業であるフィルテックは社会貢献活動の一環として、フィルテック創業(1991年9月)翌年の1992年から協力しています。

※1912年に浄見寺境内の大岡忠相の墓前で贈位祭が行われたことが祭りの始まり。関東大震災や数々の戦争で一時的に中断し、1956年に大岡越前祭と改称し再開した。



エナジーサポート杯女子バレーボール大会を開催

エナジーサポートは、第25回「エナジーサポート杯女子バレーボール大会」をエナジーサポートアリーナで開催し、市内の12チームが集結し、白熱した試合を繰り広げました。エナジスは地域とスポーツを通じた協調を図ることを目的に、この大会の支援を25年間務めています。



NGKスポーツ開発 障がい者のスポーツ活動に協力

NGKスポーツ開発は、知的障がい者のスポーツ競技会「スペシャルオリンピックス日本」の愛知支部の活動に協賛し、諸の木テニス倶楽部のコートが無償で貸し出しました。スポ開は春と秋に各9回、競技会に向けた練習を行う場として、2015年からコートを提供しています。



NGKエレクトロデバイス 河川の清掃活動を実施

NGKエレクトロデバイスは、本社工場の敷地内を流れる麦川の河川清掃を行いました。この清掃は6月の環境月間活動として実施し、環境推進委員会の3人が参加。参加者は約1時間、川の中を歩き、ごみを拾い集めました。



双信パワーテック 高齢者施設の避難訓練に協力

双信電機のグループ会社、双信パワーテックの社員4人が地元の「高齢者総合支援センターきりしま」での避難訓練に協力しました。

この避難訓練は半年に1回、地域住民や近隣企業、公共団体が協力して実施。訓練は昼間の火災を想定して行われ、参加者は車いす利用者の避難誘導を補助しました。



海外グループ会社の社会貢献活動

NGKエレクトロデバイスマレーシア 献血活動を実施

NGKエレクトロデバイスマレーシア(NGKMY)がNGKMY本社で献血活動を実施し、社員81人が協力しました。今回は事前のアナウンスを徹底し社員の関心を引きつけたことで、参加者増(昨年度の約2倍)となりました。



NGKセラミックスポーランド 障がい者支援団体主催のチャリティーランに2年連続で参加

NGKセラミックスポーランドの社員有志が、カトヴィツェ市内で開催されたチャリティーラン「カトヴィツェビジネスラン」に2年連続で参加しました。このチャリティーランは障がい者支援団体が主催するもので、2011年から開催されています。参加費用の全額が障がい者支援のために使われており、今年は義足の購入費用に充てられます。



NGKメタルズ 地元高齢者宅にスロープを設置

NGKメタルズの社員たちが、メタルズ近郊のテネシー州マディソンビルに在住する高齢者宅を訪問し、出入りにスロープを設置するボランティア活動を行いました。

アメリカの慈善福祉団体ユナイテッド・ウェイのプロジェクトに賛同したものでメタルズの社員5人はスロープの設置作業を担当しました。事前の状況確認から資材購入、設置工事など、元大工の社員が中心となって、一日がかりで立派なスロープを設置しました。



NGKセラミックスメキシコ メキシコ中南部地震の被災者に寄付

9月に起きたメキシコ中南部での大地震により甚大な被害が発生したことを受け、NGKセラミックスメキシコは有志を募り、食料品や日用品などの支援物資を寄付しました。寄付した物資は、ACMのあるヌエボ・レオン州都モンテレイ市のメキシコ赤十字社を通じて被災者に届けられました。



従業員のボランティア活動に対する支援

日本ガイシグループでは、従業員が社外ボランティアに参加するきっかけをつくるため、活動への積極的な支援や情報提供を行っています。

子どもに科学の楽しさを伝えるサイエンスボランティア

日本ガイシは、ものづくりに携わる企業として、次世代を担う子どもたちに科学の楽しさを伝えるための情報を発信しています。1997年から科学雑誌に「NGKサイエンスサイト 家庭でできる科学実験シリーズ」の連載を開始し、ホームページにも専用サイトを設け、毎月更新しています。

専門家の監修による科学実験を、ペットボトルや乾電池、野菜や調味料など、身近にあるものを使用する詳細な手順やトピックスとともに紹介し、子どもたちの興味を喚起しています。

また、1998年から毎年、「青少年のための科学の祭典・名古屋大会」(主催:日本科学技術振興財団ほか)などの地域の科学イベントに実験ブースを出展し、従業員ボランティアがNGKサイエンスサイトの実験を紹介しています。これまでに約40回の実演を行い、延べ約2万人の子どもやその親らが体験しています。

参考
URL

NGKサイエンスサイト
<https://site.ngk.co.jp/>

科学の面白さを伝えるクリスマス・レクチャー

日本ガイシは、科学の面白さを子どもたちに伝える科学イベント、英国科学実験講座「クリスマス・レクチャー2017」(読売新聞社主催、東京工業大学共催)に協賛するとともに、NAS電池の性能や魅力を紹介しました。このイベントは約200年前から英国で、科学者から青少年へのクリスマスプレゼントとして毎年開催されてきた伝統ある人気のレクチャーを日本で再現したもので、当社は2011年から協賛しています。2017年9月に実施されたテーマは「エネルギー」。NAS電池は期待の二次電池として大きくクローズアップされ、ゲスト講師として登壇した社員たちが、NAS電池の特長を子どもたちや学生に分かりやすく紹介しました。



労働組合と協調した社会貢献活動

九州北部豪雨災害への支援

日本ガイシグループは、九州北部豪雨被害による被災者の皆さまの救援や被災地の復興に役立てていただくために、7月に義援金100万円を寄付しました。また、日本ガイシ労働組合が中心になって社員から寄付を募った結果、107万円が集まり、日本ガイシは、社員からの募金と同等額の110万円を上乗せする「マッチングギフト」を採用し、8月に217万円を寄付しました(総額317万円)。



福島ひまわり里親プロジェクトへの参加

日本ガイシ労働組合は、購入したひまわりの種子を育て種子を収穫する「里親」となることで、福島との絆づくりや震災の風化対策、さらには知的作業所をはじめとした現地の方々の雇用対策に貢献する「福島ひまわり里親プロジェクト」に参加しています。

2017年度も日本ガイシの社員が東日本大震災の復興支援として種をまいたヒマワリが、名古屋・知多・小牧の3事業所と石川工場で開花しました。



地域社会との交流

日本ガイシグループは、工場見学や地域イベントなどの機会を通じて地域の皆さまとの交流を活性化するとともに、直接対話の機会を設けて、いただいたご感想やご意見を当社グループの事業活動やCSR活動に生かしていくよう努めています。

工場見学の開催

子どもや地域住民との交流

日本ガイシでは、地域との交流を図り、当社やものづくりへの関心と理解を深めていただくために、2017年度は3事業所と石川工場で10件、計253人の小学生や地域の皆さまに工場を見学していただきました。

2017年度に開催した工場見学会(日本ガイシ)

	参加人数	詳細
名古屋事業所	30人	日本ガイシ留学生基金留学生
	11人	豊橋市立高師台中学校
	30人	愛知県立高蔵寺高等学校
	5人	陸前高田市の中学生
知多事業所	50人	地域住民工場見学会
小牧事業所	7人	愛知県立春日井西高等学校
	10人	近隣区長
石川工場	39人	石川県立工業高校
	17人	名古屋「金曜会」
	54人	日本無線協力会

TOPIC

知多事業所で地域住民の工場見学会を開催

日本ガイシは、2017年11月、知多事業所は地域住民を招いて工場見学会を開催し、地域住民50人が参加しました。この見学会は重要なステークホルダーである地域住民とコミュニケーションを図ることを目的に1984年から毎年行っています。

地域住民に日本ガイシのものづくりや事業活動について理解を深めてもらうよい機会となりました。



ベリリウム銅の製造工程について説明を聞く参加者



世界最大級のがい管前で記念撮影